第4問 次の文章は、北宋の文章家曾鞏が東晋の書家王羲之に関する故事を記したものである。これを読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点 50）

羲之之書、晩乃善。則其所能、蓋亦以精力自致者、非天成也。然後世 X 有能及者、豈其学不如彼邪。則学固豈可以少哉。況欲深造道徳者邪。墨池之上、今為州学舎。教授王君盛、恐其不章也、書晋王右軍墨池之六字於楹間。以揭之。又告於鞏曰、「願有記。」推王君之心、豈愛人之善、雖一能不以廃、而因以及乎其跡邪。其亦欲推其事以勉其学者邪。夫人之有一能而使後人尚之如此。況仁人荘士之遺風余思、被於来世者如何哉。

（曾鞏「墨池記」による）

（注）

1 州学舎――州に設置された学校。

2 教授王君盛――教授の王盛（おうせい）のこと。

3 王右軍――王羲之を指す。右軍は官職名。

4 楹――家屋の正面の大きな柱。

5 鞏――曾鞏の自称。

6 仁人荘士――仁愛の徳を備えた人や行いの立派な者。

7 遺風余思――後世に及ぶ感化。

問1　波線部(ア)「晩乃善」・(イ)「豈可二以少一哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 29 ・ 30 。

(ア)「晩乃善」 29

① 年齢を重ねたので素晴らしい
② 年を取ってからこそが素晴らしい
③ 晩年になってさえも素晴らしい
④ 晩年のものはいずれも素晴らしい
⑤ 年齢にかかわらず素晴らしい

(イ)「豈可二以少一哉」 30

① やはり鍛錬をおろそかにするにちがいない
② きっと稽古が足りないにちがいない
③ なんと才能に恵まれないことだろうか
④ どうして努力を怠ってよいだろうか
⑤ なぜ若いときから精進しないのか

問2 空欄 X に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31 。

① 宜
② 将
③ 未
④ 当
⑤ 猶

問3　傍線部A「豈 其 学 不レ如レ彼 邪」に用いられている句法の説明として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 32 ・ 33 。

① この文には比較の句法が用いられており、「～には及ばない」という意味を表している。

② この文には受身の句法が用いられており、「～されることはない」という意味を表している。

③ この文には限定の句法が用いられており、「～だけではない」という意味を表している。

④ この文には疑問を含んだ推量の句法が用いられており、「～ではないだろうか」という意味を表している。

⑤ この文には仮定を含んだ感嘆の句法が用いられており、「～なら～ないなあ」という意味を表している。

⑥ この文には使役を含んだ仮定の句法が用いられており、「～させたとしても～ではない」という意味を表している。

問4　傍線部B「況欲深造道徳者邪。」とあるが、その解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 34 。

① ましてつきつめて道徳を理解しようとする者がいるのだろうか。
② まして道徳を体得できない者はなおさらであろう。
③ それでもやはり道徳を根付かせたい者がいるであろう。
④ ましてしっかりと道徳を身に付けたい者はなおさらであろう。
⑤ それでも道徳を普及させたい者はなおさらではないか。

問5　傍線部C「王　君　之　心」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35 。

① 一握りの才能ある者を優遇することなく、より多くの人材を育ててゆこうとすること。
② 王羲之の墨池の跡が忘れられてしまうことを憂い、学生たちを奮起させようとすること。
③ 歴史ある学舎の跡が廃れていることを残念に思い、王羲之の例を引き合いに出して振興しようとすること。
④ 王羲之の天賦の才能をうらやみ、その書跡を模範として学生たちを導こうとすること。
⑤ 王羲之ゆかりの学舎が忘れられてしまったことを嘆き、その歴史を曾鞏に書いてもらおうとすること。

問6　傍線部D「夫人之有一能而使後人尚之如此」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36 。

① 夫人之有二一能一而使二後人一尚レ之レ如レ此
夫の人の一能有りて後人を使ひて此くのごとく之を尚ぶ

② 夫人之有二一能一而使二後人尚レ之レ如レ此
夫の人を之れ一能有れば而ち後人をして此くのごときに之くを尚ばしむ

③ 夫人之有二一能一而使二後人尚レ之如レ此
夫れ人の一能有りて後人をして之を尚ばしむること此くのごとし

④ 夫人之有レ一能而使二後人尚レ之如レ此
夫れ人を之れ一能にして後人をして之を尚ばしむること此くのごとき有り

⑤ 夫人之有レ一能而使二後人一尚レ之如レ此
夫れ人の一能にして後人を使ひて之を尚ぶこと此くのごとき有り

問7 「墨池」の故事は、王羲之が後漢の書家張芝について述べた次の【資料】にも見える。本文および【資料】の内容に合致しないものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 37 。

【資料】

云、「張芝臨池学書、池水尽黒。使人耽之若是、未必後之也。」

（『晋書』「王羲之伝」による）

① 王羲之は張芝を見習って池が墨で真っ黒になるまで稽古を重ねたが、張芝には到底肩をならべることができないと考えていた。

② 王盛は王羲之が張芝に匹敵するほど書に熱中したことを墨池の故事として学生に示し、修練の大切さを伝えようとした。

③ 曾鞏は王羲之には天成の才能があったのではなく、張芝のような並外れた練習によって後に書家として大成したと考えていた。

④ 王羲之は張芝が書を練習して池が墨で真っ黒になったのを知って、自分もそれ以上の修練をして張芝に追いつきたいと思った。

⑤ 王盛は張芝を目標として励んだ王羲之をたたえる六字を柱の間に掲げ、曾鞏にその由来を文章に書いてくれるよう依頼した。